



平成23年度 北中物語

平成23年7月11日 12号

文責:校長 中村 裕子

校長mail yuko-nakamura@staff.gsn.ed.jp

## 夏、汗だらけのヒーローたち

真っ黒、体も体操服も……。汗だらけ、頭から靴の中まで……。しかし「いい顔」してる下校時の北中生。その黒さが汗だらけの顔がとてもすてき。それは、子どもたちが本気になって部活動に取り組んでいる証。真っ黒、汗だらけ、美しい若者……。

きて、そんな北中生を見ると、思い出すことがあります。それは、今から20年ほど前の私の北中教諭時代、ソフトテニス部の監督をしていた時のことです。その頃は県内でも結構強豪でしたから、レギュラー争いは厳しいものがありました。3年生になっても試合に出られず、応援に回るという部員が大勢いました。

多くの部員の中で、とても目立っていた生徒がKさんという3年生です。彼女は体が小さく、テニスの技術は今一歩でしたが、誰よりも練習し、タフな体力の持ち主でした。そして何よりも「ヤジ」がうまかったのです。「ヤジ」と言っても、相手への失礼な言葉ではありません。味方を乗せる「ヤジ」です。彼女が一言掛ける声は、選手を相当勇気づけるようでした。(引退後、多くの部員がそのことを感謝していました)

そして、いよいよ大会が近づきメンバーを発表する時期となりました。彼女はどうみてもメンバーには入れませんでした。彼女をベンチに入れて彼女の持つ力(味方を力づける)を生かそうと思いました。そこで考えたのがマネージャーです。私は、彼女を呼び、「次の大会ではマネージャーをやってくれないか」と頼みました。するとどうでしょう、彼女の目からみるみる涙があふれてきたのです。そして、彼女は涙声で「先生、マネージャーは試合に出られないのでしょうか?!」とだけ言いました。私は「あっ」と思いましたが、もう後の祭りです。彼女は1日だけ考えさせて欲しいと言って家に帰りました。

そして翌日、朝練習の時、彼女は私の所へ来て、明るい声で「先生、マネージャーやります」と言ったのです。今度は私が泣けてきました。それからというもの、天下一品のマネージャーぶりで、部員からは監督の私よりも信頼があったくらいです。

「子育ては子どもを知ることである」という言葉があります。あの時の私は、彼女のことを「私にとって都合のよい理解」をしていたのでした。つまり、3年間も一緒にやってきて、彼女のことを何一つわかっていなかったのです。「マネージャーにならない?」という私の一言が彼女に与えた無念さを知ったとき、「相手の身になって『知る』』ということは難しく、並大抵のことではない」ということを実感させられた出来事でした。

現在、その彼女は、埼玉県の中学校でバレーボール部の監督をしています。種目は違いますが、きっと、子どもの「本当の心」に寄り添った監督でいることなのでしょう。

今日もまた、夕刻、全教職員が生徒を門で見送ります。声に出しては言えないけれど、「君たちが今がんばっていることは生きていく上で大きな力になるんだよ。がんばれ!!!」との思いをこめた「きよなら」で……。

いよいよ大一番「夏の大会」まであと5日……皆様、表だつての応援を!

## 車での送迎、自粛を

保護者の皆様、雨だから送る、暑いから送る、疲れただろうから迎える、親が帰宅途中だから迎える・・・こんなことしていませんよね。しかし、毎朝、正門横着けの車から降りくる生徒、下校時、当然のこのように迎えるの車に乗って帰る生徒が・・・。むろん身体状況等、事情がある場合もありますが・・・。

学校生活には登下校も含まれています。(学校管理下とされています)つまり、登下校時も学びの時間ということです。友だちと話をしながらの登下校、交通ルールを守っての自転車での登下校、どちらも社会人として育てていくための「体験学習」なのです。どうぞ、安易に送迎するのはご遠慮下さい。なお、正門(東門)付近は駐車場ではありません。道路ですので駐車は好ましくありません。

**ともかく危ない**・・・本校の周辺は道路が狭い上に、ある時間帯になると、600人を超える生徒、52人の教職員の車が往來します。そしてそこに送迎の保護者の車があるわけですから、危険がいっぱいです。実は何度か危ない場面がありました。私は、保護者の皆さんを事故の加害者になってほしくないのです。事故を起こしてから、後悔してほしくないのです。ましてや自分の子どもと同じ学校の子どもを被害に遭わせたら不幸は大きいです。是非、本校の実情をご理解いただき、車での送迎の自粛をお願いいたします。

**どうしても送らなければならない場合は**・・・可能な限り学校から離れたところで乗降車させてください。(送迎車の門横着けというのが子どものためになるのでしょうか???)但し、病気・けが等の場合はこの限りではありません。この場合は、登下校中や部活動中の生徒・往來する車に十分注意して、正門からお入りいただき、安全な場所で乗降車させてください。

このような願いは、甚だ恐縮ですが、「634人の北中学校」との考えをご理解くださり、ご協力をお願いいたします。

## 校長と話をしませんか!?

夏季休業中を利用して、保護者の皆様とお話をしたいと考えています。

つきましては、私との面談を希望される方は、ご連絡ください。(日時を調整しますので)

皆さんとの面談は、校長として重要な学校経営の一つと考えています。(皆様のお考えを聞き、学校の経営やお子さんの指導に役立ててまいります。)ご連絡を待っております。

